



志保之利 三篇 七

1冊
508
27



門 1 5
508
卷 37

古ゆらり三巻七



近世軍法考とらふ多し修年久しき故に入古
師未しき多し故にたのりき古の意をうむる利
のありき多し故にたのりき古の意をうむる利
考其の曰頃日新軍法と云ふ秘訣ありけりといふ
といふも、古の意をうむる利のありき多し故に
檀の法ハ古の意をうむる利のありき多し故に
りけりといふも、古の意をうむる利のありき多し
例にやうに、古の意をうむる利のありき多し故に
くくられし、又此といふ、古の意をうむる利の
古の意をうむる利のありき多し故に、古の意を
古の意をうむる利のありき多し故に、古の意を

の道はやうく照きくころころもきく若の船軍の
させんもさうし船もはれ流すもあれ毎は洲も
ゆらん人の海流しあつらんまこと行があらもま
ひてまればゆりせんを頼あめちうれば神土と
してあひゆりさうも馬のたよりとく軍法
あつたうささハ多人の高とさすれ農氏の内他
らくあつぬとゆりま補とゆりまきかど

○宋の寇準年十九して奉せしる太宗毎よくそ
去年と同年少き者は神く罷遣す或人寇準は教
つて曰汝年と坊て養せしと寇準曰昔初て朝廷
うせむ山定そと教くまくとさく嗚呼後世の法

十六つらして一人の嗣と定まふゆり多くハ年と語
して孫とすらふ女と姉する處女年のうあきとあむ
ゆり二十よさうとも十六七をとりあふは仍新て只
集まるとあむそはのさうめあ姉の初先う新て
利と先とする者何をも新とさうせんやま今
は石志よま石志なる者多のさ嗚呼

○撥大杖 大槽頭大紫頭 崎嶇神書客忤夜啼れまぐらひ厨下
の號ありしころ大紫頭の焦處を割平にして殊少そ
書云撥大杖々々々 天上五雷差来作神特捉住夜啼鬼お
殺不要放急々如律令と書てくさうせん底茶
脚下よあふす男ハ左女ハ右の方うまうとつた

李僉知來海
目錄上包

小童三人通詞三人使令三人及下官
宗氏の家司并田隼人添来

奉呈

尾張中納言源公閣下

謹封

鷹子

鷹子

人參

虎皮

白照布

芙蓉香

黄毛筆

一連

一筋

二張

伍匹

戴十枚

戴十枚

眞墨

戴十笏

際

辛卯十一月日

通信使 朱印

後河守風形持名してこれに接して送達を以て
等と布衣素袍と名せしむ

○見明星とは成道の釋迦と云ふ形羸身醜陋はあ
るに汝若しの後牧女が十去轉の乳糜を食して
精氣充足し金剛場を跣坐し慈心三昧し
瞬八明星の出所無漏道と澄すといつて
容弄足の之儀と云ふの教と呼ぶ深考
して描く所は只比丘の形を以て可

○中修院 本末寺 奥田山 宝寿院 満願寺 中莊山 無量光院 の中なるを府

下七ツ寺 輪圍山長後寺 正多寺 の三層を容し 日本口能の寺縁あり

わし一入修心新奉高岡ありし日靈ありと感得

しきよのわしと修心縁と七ツ寺の中なるハ

安楽寺中にて造れるハ満願寺の縁路三より

移し中庄と地名なり 年と村新修造り 癸巳

宣六月十日のさひまき 二人の友縁ひてり修

清次の譯より少ありき修りしとき 修心と

かりしして田のしりる 修心とたよりありし

風ありくぬりたりし修りて人より縁とあり

ぬれ修りハごぬのこしきし 修心とありし

こしきし修りて修心とありし 東原寺とし

修あり古く益田山東原宗寺とありし 修心と

修ありし 十餘 一旦大正修心より 修心とあり

修心とあり修りしを修心とありし 修心とあり

修り益田社として 修心とありし 修心とあり

し修社としし修心とありし 修心とあり

修り修心とありし修心とありし 修心とあり

修心とありし修心とありし 修心とあり

修心とありし修心とありし 修心とあり

修心とありし修心とありし 修心とあり

修心とありし修心とありし 修心とあり

奥の市形を實望律師十四日とくち記に依り

本寺の多和毘沙門八運慶の作多く作り涅槃を縁と貞治七年二月

十六日寺は系匠公了阿弥陀佛宗廟の寺を造り

みえそのハ亭保六年あまの常行とて良圓阿闍梨

の拓られしとくち東所寺一旦破壊す時佛像経巻をくくり

法字の之殺るよりてはく佛ありし中法東石京進

藤原祐則とて南邑の城城墟寺の南二町半とて

南寺及孫介村波奇所より念略の入りありし

小塔法信大師の塑像とらんまにこれとるよしはき

七次月明浄しけりしあれはこれより又寺あり

まして作りしと南村法のとね村法の中阿とて

奥田村のあり及のほくそこの二とて又少しとて

寺に念文書ありて定印のを容をあきりて類

なきありとてありしと南寺あり佛像あり

作り院内の佛院のあり

○寛文七年元年天和辛酉の凶年とて亂饑等しく饑

享溝壑と極しけり時め年穀今日よりハ備りし

今茲癸巳まき友の際暴風毒霧志ハくありて

麦枯れしれりしを年とありしと南の直一年く

より貴し念文ありて南寺ありと南寺と南寺と

推今日念文ありて南寺ありと南寺ありと

南寺ありの南寺ありと南寺ありと南寺あり

よて他求め難くたつごと

系たりし小麦のうすくあつて彼の作らうと行
ふやうに本井の藤友日日 如きよきやきりる

それきよ夜のくくくはれしきいとよはくの好し
わろ移りも本報のまきととくあつて作り安し

○太上皇御落飾癸巳御辞詔

去レ貞享四年辞

大寶之日皇蒙

詔上旨強山宗號孝思難拒唯居上九之位景仰不

已父親不二ノ之門心迹相拌星霜屢

改夫已退讓遂志為佳是故出塵去指將遊無

為之場埋先鏗彩宜避

太上之号歷一甲文春秋誰議嘉道之果况為二帝之

父祖唯慮元龍之畏今儀伏乃

禁闕之備茨山章列貢賦非福田之禱茅土

何須皆是違素志宜一停止景請隨

保延嘉應之古例早脱尊号微名之虚絆

正徳三年八月日

○愚堂和尚證寶鑑国師寛文元年化

濃列正完基の地多正傳寺物中山城国花山寺

いし古き梵刹多ううう荒廢して玉作再創

してりてたき後体うう柳子山と号せ海

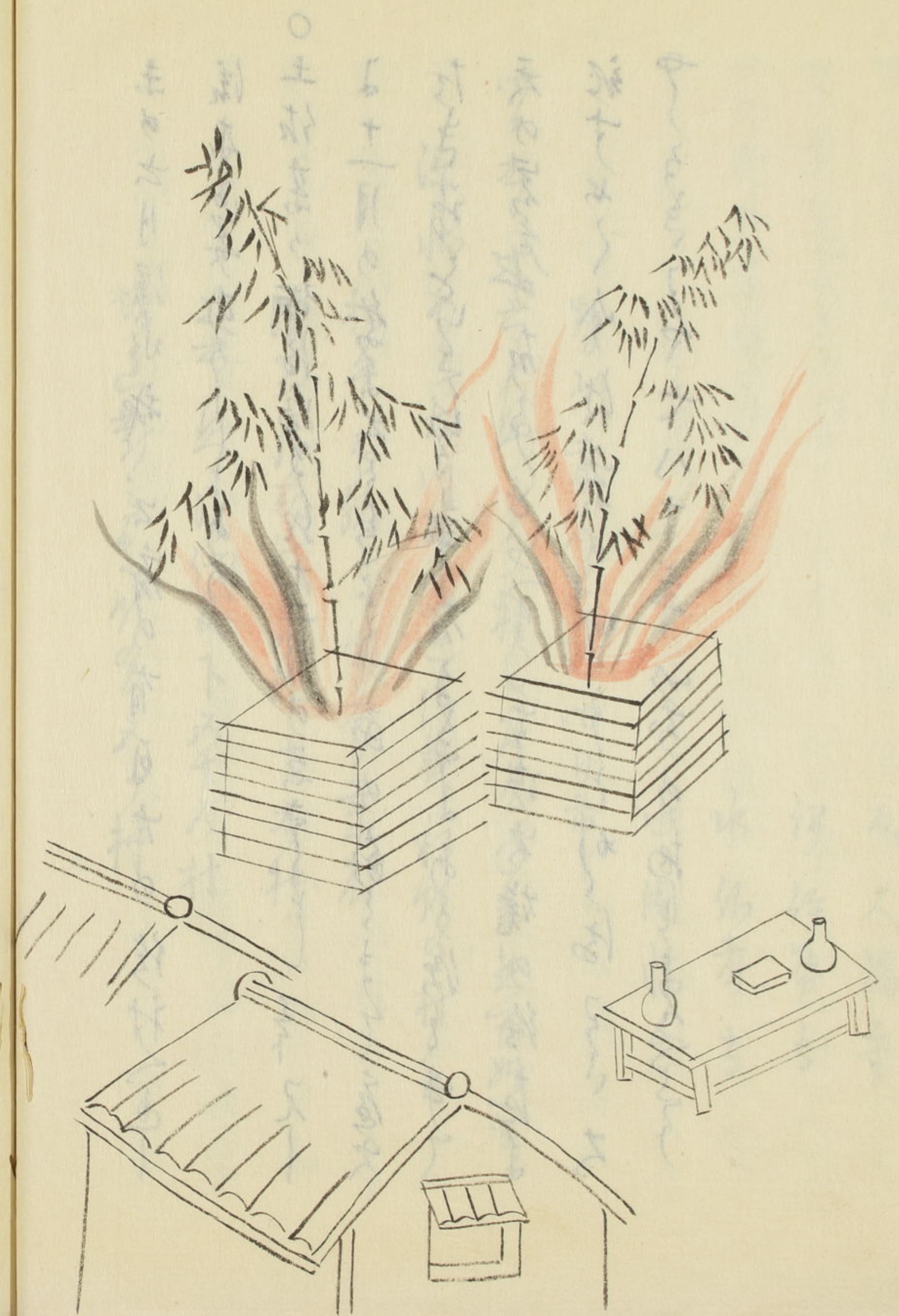
○或回吾子先之密河の燈穀醬と断ちて法は
昨遺者より之を云古所河より後くりて
や日蕪悉地経蕪婆姑経より諸供養法の儀軌
多クあり 是一経のより後よりんや

○乙未我公領赤弓山の我本法水より流する時
他領の民これと奪ひた己より利とすりて事
常より割替ありしに於みしよりハハハハ
事定ししに之に春柳菅の有日廻文あり其
文あり

尾花教領分赤弓山より後わ法儀本法水は
川筋ありて道根如後之より一宮水入子年

赤弓山に法儀本赤弓川筋ハ山元分惣列
長修院赤巻領城川通より入るる事定
寺の御書抄より人長修院赤巻名曰り多海
之の流筋よりハ横如後より入るる事定
以後ハ古海道より我本流筋より入るる事定
中修院分一法儀本赤弓山より入るる事定
より中修院分一法儀本赤弓山より入るる事定
より中修院分一法儀本赤弓山より入るる事定
より中修院分一法儀本赤弓山より入るる事定
より中修院分一法儀本赤弓山より入るる事定

二ノノノノノ
萩 海老島
萩 海老島



○長八年癸卯八月自十六日至十七日故三位中将家清家入

子命一清次山王社奉酌の御所也

新多村竹林	三村勘十郎	野村善左
河地権四	付次三清	安信勘三清
柏免新左	安友九郎	川原清三
河小能兵	村瀬覚四	経向三三
畠方三助	三野少兵	久之保忠八郎
修田右清次	権田久三清	安友三三
松田清兵	山又右三清	膳部三三
清水右助	三友三三	寺尾三三
中修右三助	長谷川清七	安友三三

中津野町一ノ久保町一ノ末原町六ノ町半
播町四ノ表町

長寺町二ノ少振町二ノ下長寺町二ノ八百屋町二半
光町三

長津町二ノ信田町二ノ田町二
赤名町二ノ楠島町一ノ新井町二

徳見町二ノ淀町二ノ河合町二ノ赤倉町二
上津屋町二ノ中津園町二ノ下津園町二ノ津屋町二半

正万方町二ノ皆戸町二
之根本町二ノ本根本町二

元根本町二ノ辰町二

右ハ南北ニテ 堀川以東也

乃新町二ノ新入町二ノ納屋町
朽倉町二ノ江川町二ノ海老名町二ノ戸田町二

堀濱町二ノ少新町二ノ半塩町二ノ堀江町二
本換町二

右ハ堀川以西
六條町二ノ半上名町二ノ半和泉町一ノ久和町一
車町二ノ十河車町三

松尾町二
徳之町 十

徳之町 十
徳之町 十
徳之町 十

右の東の町

東ノ分四十二回

と七多町 = 下七多町 = 杉中町 = 住吉町 =

芸法町 = 丸盤町 = 針尾町 杉中町 =

浮盤町 = 津名町 = 本堂町 六 （月南北東のノ町アリ）

大付町 = 瀬戸物町 = 朝日町 一半 山田町 六

岡波法町 = 吉岡町 一半 少多場 一 小塚町 一

之屋町 = 之田町 三

右の南の町也

糸町 = 法町 一 中多場町 一半 石町 = 小投町 =

瑞名町 = 九千軒町 = 子名町 二 半 飯田町 =

○ 佐子町 = 狭野橋町 三 赤坂町 又 坂之町 三

右の内新町よりある東の町を中町と

南の町を南町と

永安寺町 七町

宮町 六町 濱河町 又 東門前町 法蔵寺町

中町 又 東多場町

後河町 又 東の南の町を南町と

け印入江町 （度少路一） 廻年の名松町 極町 東

田町 八枚の名成を 寺社を法蔵寺の支那地

と

○ 丙申夏の神心法小夜病流りしと我尾

久し〜たまふ〜らんま〜て〜み〜り〜し〜
 了〜し〜け〜て〜定〜却〜し〜た〜み〜ま〜た〜の〜地〜居〜大〜士〜と
 雖〜也〜め〜伊〜副〜の〜社〜の〜侍〜し〜あ〜ま〜也〜
社今ハ詔テ
ミ璽定リ
 修〜後〜冷〜泉〜帝〜の〜付〜し〜々〜幸〜と〜し〜ら〜し〜れ〜と〜鳴〜海〜と
 呼〜し〜
如き也
そらう
 元〜令〜始〜ま〜鬼〜に〜と〜す〜れ〜し〜事〜あり
 一〜の〜青〜鬼〜山〜と〜号〜也〜一〜後〜一〜系〜と〜人〜再〜興〜して
 之〜頃〜土〜師〜の〜記〜あり〜地〜居〜是〜論〜記〜を〜と〜し〜し〜け〜靈
 像〜の〜事〜あり〜所〜川〜は〜望〜め〜は〜大〜高〜の〜里〜
今ハ大高
すら〜し〜
 松〜風〜の〜里〜あり〜と〜て〜田〜の〜も〜さ〜く〜後〜
井
村
多
う
と
の
松
と
よ
ま
は
れ
の
里
也
 早〜後〜の〜橋〜も〜今〜ハ〜あ〜ら〜し〜ら〜し〜ら〜し〜
 ○濃〜名〜依〜牟〜大〜日〜山〜美〜江〜寺〜の〜十一〜面
長
三
寸
 三〜寸〜長〜き〜入〜り〜し〜伊〜勢〜也

名〜依〜能〜伊〜勢〜寺〜の〜如〜き〜ら〜ら〜し〜
 丁巳元正帝美濃國長江の像〜行幸あり彼
 土面大士の像
膠漆布ノ製
頂上佛面ハ
伊勢を以て
作らる
 王天武
の孫に令〜し〜寺〜と〜建〜す〜也〜
 唐の善無畏三藏寺昔今の美
江寺の澤ニ在し〜ら〜
 齊夜道三介の地高の橋高〜し〜
 滑高わ高也〜し〜石高石高部高と〜し〜
 ○唐の字梁の如譯の經論高は唐の字と齊高と
 却帝の付高し〜鬼高よ高は高し〜し〜口訣高と〜し〜
 ○享保元年丙申八月十三日新居
吉宗公
 大廣同後
御末帶上段
御着座
 高倉中納言法衣紋高と〜し〜

古法門之部少将法身固之候也 三衣法衣名 申て

若使 山科 法身進之と啓し官務 宣旨の貫の相と

法車寄りよしけね平對する所にて法衣が

筆間侍長 井上 奉之御紀方の覽給も口よりあり

の勅と述願との間へ退か 法衣或は法衣丸法衣の

勅使以下自の故賀ありありの法使とあり

口十の部新將軍家より法衣一俵二俵を

并に法衣より法衣東軍に圍高令土御門等奉との法

衣寄營大饗儀儀奉あり

式三妻 凡院後神

同口 秋のせよ法衣の海也と志つる所あり

弓八幡ありし後 法衣 法中入 指矢あり

後 法衣

今日之部新將軍御一門等乞座

口十八日新將軍家より法衣 御直垂 上段御着座

奉りし法衣法衣直に法衣に法衣に法衣に

の奉と謝りし法衣法衣ありて法衣法衣

法衣法衣法衣法衣法衣法衣法衣法衣

白銀五百枚緋百把 法衣法衣 法衣法衣

白銀三百枚緋十 法衣法衣 法衣法衣

白銀百枚緋十 法衣法衣 法衣法衣

圓名清代正徳二年壬辰のまゝに在りては
一之及付修り別り相れあり
清の清あり修り修りハ
清の清あり修り修りハ

天台東照宮神宮寺 東照宮神主 臨濟水野

維摩院 吉見刑部大輔 定光寺

真言 天王坊 同日

長久寺 同日

清教所獨修清提所ハ寺

淨土宗衣 曹洞

蓮中寺 柳魚寺 了松寺

淨土 大森寺 同日 性高院 同日 高岳院

臨濟 政秀寺 曹洞 大光院

神戶 善覺院 馬嶋 明眼院 御嵩 願真寺

吉根 龍泉寺 小田井 願王寺 岐阜 美江寺

前原 白雲寺 荒子 觀音寺 岩屋寺村 岩屋寺惣代

萩 妙來寺 契田 瀧之坊 石山 石山寺

内津 妙見寺 契田座主 如法院 大府 延命寺

契田

持福院

木田

觀福寺

契田

圓定坊

日

寶藏坊

鎮西派

壽經寺

遍照院

清淨寺

清須

正覺寺

西蓮寺

清安寺

光明寺

梅香院

阿彌陀寺

法藏寺

瑞寶寺

養林寺

尋盛寺

寶周寺

藤木
退休寺

緒川

善導寺

建中寺後者

宗心院

日

全順院

飛保檀林

曼陀羅寺

西山派

部田檀林

祐福寺

熱田檀林

正覺寺

一宮

常念寺

成岩

常樂寺

西光院

法應寺

大野

東龍寺

誓願寺

采園寺

極樂寺

德林寺

久屋

誓願寺

真言宗

契田神宮寺

醫王院

蜂須賀

蓮華寺

一宮

地藏寺

甚目寺

法華院

七寺

永正寺

国府宮

威徳院

契田神宮寺
不勤院

長野

万徳寺

大塚

性海寺

杉並

大坊

土田

宝幢院

笠寺

西方院

戸部

天福寺

笠寺

東光院

契田神宮寺
愛染院

宝性院

小松寺村

小松寺

薬師寺

甚目寺

東林坊

吉田

新長谷寺

結鹿尾

寂光院

須原

觀音院

臨濟宗

大山

瑞泉寺

谷口

汾陽寺

古渡

恭雲寺

總見寺

大山

徳授寺

上智

清恭寺

契田
永泉寺

禪隆寺

杉並

凌雲寺

龍珠寺

清須

總見寺

長良

崇福寺

契田
乾徳寺

野上

正傳寺

鶴沼

大安寺

海福寺

東田町

宝林寺

細目

大仙寺

小熊
大宝寺

白林寺

妙真寺村

妙興寺

熱田 妙安寺

瑞雲寺

神岡 龍門寺

卯場 良福寺

中村 愚溪寺

神領 瑞雲寺

大林寺

石原 真禪寺

契田 大法寺

田乘 新徳寺

楠葉 禪源寺

比久見 妙樂寺

如意 瑞應寺

六角堂 長光寺

慈雲庵

蜂屋 瑞林寺

契田 海國寺

水源寺

大高 長壽寺

五山派

田上 法山寺

木買崎 長母寺

曹洞派

下津

正眼寺

白坂 雲興寺

岩倉 含笑寺

木田 長源寺

契田 法持寺

龍潭寺

契田 福童寺

萱田 正法寺

小折 久昌寺

小幡

大永寺

契田

圓通寺

津嶋

興禪寺

永安寺

善篤寺

鳴海

瑞禪寺

九坪

平田寺

常滑

總心寺

恭增寺

下飯田

成福寺

乾德寺

高顯寺

古井

光正院

契田

全隆寺

御器所

龍興寺

普藏寺

長榮寺

安用寺

靈岳院

土田

大吉寺

緒川

乾坤院

細目

西山別派

善惠寺

黃蘗派

東輪寺

日蓮宗

妙勝寺

本遠寺

實成寺

法華寺

本立寺

常德寺

大法寺

妙本寺

照遠寺

本要寺

法輪寺

本住寺

大光寺

情妙寺

長栄寺

聖運寺

妙蓮寺

押切本龍寺

岐阜法華寺

岐阜妙照寺

淨蓮寺

本正寺

妙泉寺

本成寺

蓮華寺

壽元寺

蓮勝寺

小林

玄來寺

妙行寺

一向宗西東二派

長島

東本願寺名代當年輪番

願證寺

針崎

勝鬘寺

興禪寺

聖德寺

寺也

守綱寺

珉光寺

大野

光明寺

岐阜

淨土寺

松葉

圓長寺

教授寺

成岩

無量壽寺

真廣寺

万福寺

契田

真德寺

淨教寺

覺正寺

前田

圓盛寺

教泉寺

善龍寺

真宗寺

正覺寺

長圓寺

長德寺

圓勝寺

教順寺

延廣寺

墨股

滿福寺

足近

西方寺

東田町

淨圓寺

常瑞寺

川安賀

正福寺

川安賀

專德寺

柔西寺

西願寺

津島

正教寺

長福寺

批把嶋

西源寺

小林

淨蓮寺

善導寺

養念寺

廣井

樂運寺

慶榮寺

円明寺

中下

長圓寺

今尾

西願寺

岐阜

蓮生寺

牛立

法藏寺

四女子

善行寺

廣井

正福寺

願真寺

德本寺

廣井

淨信寺

中下

正寛寺

小塚

西生寺

聞安寺

下津

阿弥陀寺

八神

珉德寺

崇寛寺

光蓮寺

善龍寺

前飛保

上宮寺

赤津

万徳寺

高田宗

信行寺

至誠寺

賢隆寺

本泉寺

萱津

光明寺

時宗

津島

蓮臺寺

津島

西福寺

山伏

瑪瑙琥珀等して飾り多し巧なる多し飾れ
よも惠心定朝運慶等の名作なるを遣羅
琵琶婆羅遮^{ハハ}と云坐のゆきる回の作ハ以係
芒屨おししてあしも印度の姿わらうと
ふゆ

○結神 長清集に

とややぬくのまとははらてあすの秋とくみはる

仔行

衣るれひられれば整うて人のけしきも清くさう

公胡

草茨和言集いふ草の條下よきうらめあ

ハ男女の多かりと占りんとて草とらふあを
してハハけざうらう男の名をうらハハあを
うら彼神麻袴の清きうらめははらて草と
おくし名をはらしてとてははら結する
とらうらとらうらあをいハとられにあす
それうらうらハハけ草のあはまらうはら
はらとらうらとらうらの男うらはらうら
のやハあをけはら

濃列垂井の驛ハ結の神と佐傳ハ少葉ハ
あまうらうらハ甚卑うら夫あすの秋とら
春霊のうらとらハ凡生あは始とらうら男女

木の大工圍むがうらむお四よ志るうらむ
けりハ後醍醐
勅して桂をせまひしと云傳く海を

○近世唐船入津の救と定めしうらむ
或々み十艘三十艘又長崎の町船は元八十艘の所
とありし比年異船我好高と称し夢買するものと
禁せし海是より唐人町くよ志する事なりし
別地は藤敏十善寺唐人海客とらし言ふ事
近き比異小人物を海に傳へし船とよせおと密人
と起るしとせし正徳六年乙未買舟の命をうけて信長
從口修下友原重之久世大和守清の福列官席へ書を
投し一年私商船交易不致絶るよ近口清人と

船して我を海を渡す是中島の民よありし
そ氏うらむはけり書とて入付せしめらるし符章
なり去我のありし海邊とらるしハ必しこれと傳すし
新船み千之艘と定め符と齎して強きしは福者の下
目これと官席よ志せしし海客と称すよ海に
これより清船我のありし志少うらむし吉年享保元年
官席これとすしり目と刑し海客とらるしとわく
通しては年丁酉よりおのこく清人の船期と
たふす入津をききしとありしこれだけ秋
十余艘ありし海客の便海に喊せしと長崎の
人のありしとらるし

荻似人形と云ふ事

武者少少あり

○天工用物三卷上中異邦の雜記より凡十八條あり
しき事一りありその中よ布の事とあり

布衣起彈紡具圖

凡綿禦寒棉花古書名桑麻種遍天下花有白紫
二色春種秋花先綻者逐日摘取取不一時其花粘子
于腹登起起彈而分之去子取花縣子彈化彈後以木板
擡成長條以登紡車引緒糾成紗縷然後繞筒隻
牽經就織凡紡土能者一手握三管紡錠上凡棉布

○寸土皆有而織造尚松江將水染尚蕪湖云外國朝

鮮造法相同惟西象眼倭花等云々

梅すりの棉布の造法織製り云々
作ハ梵語所謂ハ貝是ハ元の時中ハ去
割精ハ去ハ術義補ハ云々
考ハ綿ハ月ハこれハ麻布ハ綿と
つハ此ハ以ハ卑ハ高ハ法と布ハ年
也

○或云我々俗多夢想の妙事として世に用ふる
りてり虚誕の事然りてりてりありや
答異邦言中靈事と感得云々

一凡為僧者自引導於葬處乃限父母師長及僧徒
如其余送葬不可赴其處是佛制而律有明文然近
世以送葬為僧徒之職習以為常不覺是非甚至檀
越之死為僧家之福嗚呼法滅相戴甚於此向後葬
斂當下率大眾於佛殿行之

一不論有緣無緣及斃於道路其葬本山者住持當
資其冥福

一墓上石誌前刻法華首題及法名後刻姓名年月
若夫墳墓碑石縱雖為儒法可隨其檀越之求然
禁祭之以酒肉

一鬼簿錄法名其下記姓名鄉里年月及夏實不

論貴賤可薦冥福

一近世薦亡者修法事去其牌位於佛殿香花茶果備極
供養而佛前供具不及其百分文一是大訛也夫薦亡之法
以諸供物奉獻如來勤修法事則依其功德亡者升脫然不
供如未而惟供亡者則豈理也哉向後薦亡法事當如法行
之至亡者牌位則於其平生所安之處供養而可也

一近世富人死則不論門地下賤妄費賤物高大其石誌
莊飾其牌位而無士庶大別向後石誌牌位共可堅守
所定之制量

一以香火寺名為創建檀主號乃本朝中古之風而名鄉
鉅公之稱也然近世僧徒不論士庶謾授院号是大訛也

向後堅禁之。且夫院号ノ之下。安ス殿字ヲ乃叢林ノ禪徒所傳。謬ラ而甚無義理。向後縱レ雖有官爵一者有故祿中院號上不レ提レ加二殿字一。

一近世書經文於布衫以為死人服。名曰經衫。是ラ大訛也。然モ書ノ于布衫。以經ニ身ニ骸ニ。遂至焚燒。以為レ灰ト。非法之罪。莫斯ヲ為レ甚。向後堅禁レ之。

一近世名曰橫被者。古之覆肩カ。夫覆肩者。本是尼之服。而非僧之服也。佛在世。阿難一人有因緣聽レ覆肩。今僧徒着レ之大違佛制。又五條小袈裟。絡子之類。于絡子者。唐朝南方之禪僧之所着。叔氏要覽引レ根本白一。羯磨強為レ會通。雖曰レ實勝ニ空身ニ而非佛制。而禪僧ノ妄作。則何為用レ之。

袈裟上色帶ヲ名二修多羅一者。亦是後人謬制。古師所訶也。又法服之領。名曰僧綱上者。亦後人妄作也。又名二花帽子一而裏レ頭者。亦是國俗尼女之所蒙。僧徒用レ之者。其始起レ於禁裏。御修法密徒所蒙也。是禦寒之服。而耳。今當宗僧徒襲レ其謬。准法衣以蒙レ之。遂冒レ祖師像。甚至下以綿帽代之。非法之甚。不足レ掛齒一。向後着如上諸服。不許入レ寺一。况於レ共住僧徒乎。慎勿レ着レ非法之服。

一念珠本是課佛號經咒一。而計レ其數ヲ之具也。近世僧徒拜佛ヲ時。揮レ為聲ヲ。甚無謂矣。夫揮レ以為レ聲ヲ。乃修外法者所作也。當宗僧徒豈為レ外法者流之態乎。向後堅禁レ之。

一近世鬼子母神像。冒レ頭上ニ以レ俗衣一。褻慢之甚。殆似レ弄二

僊俱向後堅禁之當如法供養

○尾南新多那野作云之清寺作云河内新建子
して兼唐年中の創草ありの三聖と号す
後、大寺將杉朝光考釋因之長寶福のあり
修す享保四年 辛卯十月十日 名大のあり
焼たすされしとあり夾侍靈異ありて換
名せりしとありや天文三年 甲午三月勸進
修す作云とあり

○攝列兵庫湊醫王山廣嚴室勝禪寺記并楠正成
戦死記八正徳二年四月御法皇御方の珂然和尚等
記あり

廣嚴現任祖院師志新と祭し正徳二年六月

大日御教役の法重のありし所と舎し観

音職と修しあり定成とせり

○清々紀の影法師とありてせりやとありしは
こりしとありて極月に入りて清々石余文とあり
張十六泉ありとあり其邦も多清の言ありありや
とありありあり平田祿宏の自叙録にありては
百清とありあり河内石文と張十方とありと
ありて石清清貴銭賜とありはありあり
とありありありとありありありありあり
○或回文昭院殿の清々安母初ハリとありありあり

まじりておれり。常憲公の命りて、本願山より
要ありし。准后のえし法をいふは、
そ法諱如何と弔回頃日台家の後より、
靈會回經ニ長呂院殿経從一位云云台光大姉
寛文四年申辰
二月十八日造

○安永姫九月十四日清揚院正一位云云大后三十
三四志勅會より、法導寺師華頂文尊統法
親王坊とち貫首造譽大僧正

○或曰往生講とて講の字義如何念以指
うと呼ハ構の字や多し、構と念也結也集也
と字多し、あくと弔回不徒古より朝廷の寂

勝講山つめ三十講おほく人より、たれり、
寛弘法記雲圖抄より、皆を人より、海を
ありしと例して、凡そ事を多し、あると集會
の義ありす

○普廣院の御軍義初々青蓮院のと臺あり、
ましあり、時南行ちの景南急氣して、
せしりしとや

○此書三月九日 府下富士塚少清呂氏のけり、
堀修めしよ水田を、きりめは、
多すし、あくと、あくと、あくと

多きと云ぬ人よんをどやをいぢるみかこの山のま
の咲と縁ももしと父の出ぬんやわづは
まき音うのみ海しと島土とんくよとこ
りくくりれとめまひしとくやわあハフ
してありれとまきくつりあや

○大如玉年をいふ 十才歌 梅稚としひし 浪士
ありしきよハ浪人の振し海法せし 呼子まの
秘とまうしううと人ヤセし 秘し或官を
りりありよわきあうてあぬ
年うの山と志すすくまうとまきとまきと遊遊
と洋子よまのこまきとまきとまきとまきと

○越中婦眉郡鷓坂神社式のあつし 初宮祓禊と宮
附一都の姉女を年あつし 男の秘をいれまきと
つて女の眉と髻これとまきくくらのまきとまきと
顯昭法師のあつし

いふせんうさう此ありの進食とれハまきとまきとまきと
とまきのまきを筑摩の海のおとけし 風俗
くま音海風まきしあつてわして屏め姉女と戒
くま

- 居家必備 五葉枕の方あり 頭風目眩と治すし
- くま 蔓荊子 八分 細辛 六分 吳白芷 六分
- 芎藭 六分 白朮 四分 通草 九分 防風 八分 藜蘆 六分

羚羊角 八分 犀角 八分 黑豆 五合擇 持令淨 石菖蒲 八分

右の薬加判し一碎まじりし中筋の沸しを控よかお三日月の後薬を湯まじはこれと換へし

○朝解のその者よく承ふし従つて道と構せし者
多し一薬退治のいし薬理が熟うり結うりその
書或備のうりし重宝の事ハ各別め事
しわし之藥おぬのまふしけしやし心術よ
道義よればさるしけしひ身よ力うく懦弱
うりしけしん去却を海ハ何の用よま
しき者よ豊后氏の一語よま傷居て方とも
防ぎしやとせしとせしをうて方とせし控

つしし胡蝶ハ赤方の口にいれりしとき
うしとりうしし人の事よあれどもこわら
し御備しうしし海まじりきまはるくけし
おぬのくしとせしめ

○東冥後父三十二名般若取法性寺観言の係を
一辨の運流の事しし權しりしり按すうり
水月一葉琉璃等の係と皆一辨の運流の事
せしし又我愛智那等々の係よんまとあす
ハ別し縁起の係ありけ観言の係しとあ
阿含陀宗取の係とちし跨回りあり
○凡観音部多しの形係ありてみ一係の心ね

形あり

元

正観音

飛

十手

元

馬頭

元

十一面

元

準眼

水

不定絹素

飛

如意輪

元

葉衣

元

白衣

元

多羅

元

毗俱毗

元

青頸

元

香王

元

楊柳

元

水月

元

阿摩提

元

來迎

元

酒水

元

梵造

けり魚籃観音ハりりううのあまの富麻

曼陀羅の内観音の像さぬ

智光感得の變相観音ハ左手

宝珠と持ちり其他和漢の像多し

○篆象の文より梅苑柙枝の形より

りしころハ磁器ることろの落し月ハ劔刀

の象よりけりハ其具の落しより

まけちぬくとけりハそれこそまけちぬと

半けりハけりハけりハけりハけりハけりハ

ちししきもあつまきまきとまきと

ろくハけりハけりハけりハけりハけりハ

けりハけりハけりハけりハけりハけりハ

